

第4回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成27年8月28日（金）18時30分～20時00分

2. 場 所 市役所10階 第6会議室

3. 出席者 計27名（有識者11名及び関係部長16名）

4. 議事内容報告

1 開会

※事務局より欠席者の報告、配布資料の確認。

- 本日、事務局で実施した人口アンケートの報告書を参考資料として配布した。前回、このアンケート中、住みやすさに関する質問で帯広市の公共料金に対してマイナスの回答をされていることに対し質問をいただいたところである。
- これを受け、事務局で調べたところ、水道料金は道内平均より安く、ガスやゴミ袋代は高い状況にある。
- 比較的アンケート回収数が多い、札幌市より高いものが多いこともあり、回答結果に表れていることが考えられる。

2 議題

(1) 帯広市総合戦略（骨子）について

※事務局より骨子イメージと有識者委員から事前にいただいた、民間に期待される役割、行政による取り組みに関する意見等について説明。

（説明要旨）

- 基本目標「新たな仕事を創出する」については、帯広市で検討中の取り組みと重なる有識者意見が多かったが、それ以外の意見として、地域人材の活用や産産連携などがあった。
- 「十勝・帯広へのひとの流れをつくる」については、地域の魅力の共有として、地域の伝統・文化の見直しに関する意見があったほか、観光振興の観点から多様な滞在者の受け入れなどの意見をいただいた。
- 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、働きやすい職場環境づくりや、多様な働き方の支援などについて意見をいただいた。
- 「安全安心で快適なまちをつくる」については、若者・障害者・企業等が地域に参画しやすい仕組みや、高齢者の活躍の場づくりに関する意見などがあったほか、オール十勝でまちづくりを推進すること、地域間交流などについても意見をいただいたところ。

※事務局説明後、各有識者より、今後、重点化すべき施策や行政の取り組みに関する意見等をいただいた。

(発言要旨)

- 委員の皆さんから事前に提出された意見で、大体のものが揃っていると感じており、あとは、どれを捨てて、どれをやるか、ということだと思う。
何を地域の強みとして、地域を活性化させていくかという点では、「仕事の創出」と「ひとの流れ」に力点を置くべき。「子育て」と「安全安心なまち」については、帯広市は一定の水準にあると思うので、産業を振興し、外貨を獲得して、これらを一層充実させるのが良い。
行政においては、全体に予算を散らすというわけではなく、覚悟を決めて重点的な配分を選択していただきたい。

- 長年、子どもたちと関わる仕事をした中で、心を病んでいる子どもが多いことを感じている。母親の愛情をいっぱいを受けて育っていくのが理想であり、育児休暇をしっかりと取れるようなシステムを（行政が）構築できればと思う。

- 人口を増やす手法として、帯広への人の流れをつくることと、出生数を増やすことがあるが、出生数は急に増えるものではないことから、人の流れをつくることが取り組むべき重要課題と考える。
その場合、住みやすいまち、仕事があること、の2点が重要であり、これが結果として移住の促進につながると思う。
仕事を求めて人が東京に流れていくが、東京と競うのは大変難しいことであり、札幌への流出を防ぐことが重要である。就職、進学のタイミングで帯広に残ってもらう仕組みづくりが必要。
また、道東の拠点としての帯広という観点では、都市機能を帯広に集積させながら、十勝の市町村の役割を明確にすることも重要ではないか。

- 仕事を増やす、雇用を増やすということが全てにつながっていくと思う。
この地域は食などの強みがあるが、そうしたものを小さい頃から理解させる、要するに郷土愛を持たせることが大変重要である。将来的に、外でこの地域をPRすることにもつながる。
子どもたちは自分の言葉で地域の魅力を話すことができないが、経験豊かな高齢者らとの交流などを通じて理解することができると考えており、そのための場づくりが必要ではないか。

- 一番大切なのは「新たな仕事づくり」であると思うが、仕事づくりというのは、実際には非常に難しいものと考えている。
十勝・帯広の強みは農業であり、これは道内の他地域と比べても際立っている。よって、農業とこれに関連する産業をさらに発展させることが、十勝・帯広を発展させる最大の方法である。
フードバレーとかち構想を深めていくことが一番大事であろう。
道内で見た場合、帯広は経済的な面も含めて札幌の次に安定しており、気候も恵まれている。これらを子どもたちにもっと認識させる取り組みが必要である。

例えば、帯広市歌を学校の授業で扱うなど、ふるさとへの愛着を育む取り組みを検討いただきたい。

- フードバレーとかちの取り組みが十勝・帯広にとって最大の武器になると思っており、地域資源を活かした産業振興や、地域産業の競争力強化、産業人の育成が大切である。

十勝は食料自給率1,100%を謳っているが、原料生産に終わっていると感じており、優れた加工術など、まだまだ都府県と比べて弱く、向上させなければならない。本当の意味での自給率アップを図ることが重要であり、それらに対する支援があっても良いのではないか。

また、他の委員も言っておられた教育の視点について、子どもたちが帰って来たいと思える地域にすることが大切であり、例えば、学校給食センターが新しくなったが、子どもたちが大人になったときに誇れる学校給食となるよう、地産地消の取り組みなどを進めていってもらいたい。

- 出生率を上げるのは容易なことではなく、今できることは社会増であり、その戦略として2点申し上げたい。

一つは伝統文化の再生・継承。これには産業も含まれる。伝統を振り返って我々の強み（コアコンピタンス）を知ることで、次の産業が展開されると思う。しっかりと情報発信していく必要がある。

また、地域の強みを小中学校で教えることでコミュニティへの帰属意識を高め、子どもたちにプライドを持たせることができる。子どもたちがこの地域から出て行った場合にも、この地域をPRし、周囲に影響を与えることができる。

もう一点は社会システムの再構築。コミュニティの再編による若年層の参画、安全安心なエネルギーをつくり公共料金の値下げにつなげていくこと、交通網の整備、土地の活用など、まちをデザインし直すことが必要である。

以上から、「ひとの流れ」と「安全安心なまち」を重点としつつ、他の基本目標も網羅するものと考えている。また、シルバーデモクラシーを極力抑え、若者に希望を持たせるまちづくりを目指すべきである。

- どんなまちに住みたいか、どんなところに人は集まるかと考えると、住む場所、学ぶ場所、働く場所があるところ。それは全て基本目標の中に入っていると思う。住む場所というのは、住環境・子育て環境の整備であり、学ぶ場所というのは、高等教育機関に限らず、学校教育・生涯学習含めた場所があり、学ぶ人がいて、教えられる人がいるということが大切である。

また、小さいときから十勝・帯広の良い所をしっかりと教えることで、子どもに自己肯定感を持たせることも重要である。

最後に、何より大事なこととして、働く場所がなければ人は集まってこないと考えており、中小企業の競争環境をつくっていくことや、地域資源を活かした産業を創出しなければならない。農業だけでなく、自然や、ここに住んでいる人たちの生活自体も地域資源であり、それを産業と結びつけるのが良いと思う。

帯広市に対しては、どのようにまちづくりを進めていくのか、地域間競争に勝つための考え方を示していただいて、国に挑むという姿勢を是非とも市民に見せていただきたいと思う。

○考え方を变えて、例えば、十勝がなくなったとしたら、日本、北海道は何を失うのかについて、答えが出れば戦い方が決まってくるのではないかと。

また、十勝が独立して運営していくには何が必要なのかという視点も持ってみてはどうかと思う。

いずれにしても大体のものは揃っていると思うが、敢えて民間と行政の役割を分けて考える必要はあるのか疑問。むしろ何も意識せずに、やれることをやるという姿勢でも良いのではないかと。

○郷土愛やキャリア教育など、いずれも重要な問題であると思うが、学校の中で解決しようという風土があり、先生方は困るまで地域に応援を頼まない傾向がある気がしている。地域の方々や企業が子どもの教育機会を色々と提供できるのだから、地域側から学校に提案できるようになれば、地域全体で子どもを育てることになって面白いと思う。

また、CCRCについてであるが、高齢者の知的な好奇心は高いと感じており、十勝・帯広には大学のほか、試験研究機関、生産現場や工場もある。これらを活用すれば、体験観光や生涯学習よりもう一段階上の専門的な知的な好奇心を満たす仕組みができると考えており、一時的に滞在する高齢者の方々などを呼び込むビジネスなどにつながるのではないかと。

○新たな仕事をつくることと、人の流れをつくることが重要であるとする。他の地域に劣らない収入が得られないと、若い人は出て行ってしまいうし、東京圏・札幌圏から人を引っ張ることは出来ない。

出生率を上げる方法、良いアイデアはなかなか出てこないのではないかと。

※有識者委員の発表後、各部長より意見等をいただいた。

○行政と民間の役割を明確に区分することは難しい部分もあるが、基本的には行政は地域を面として捉えて、強みを活かし、弱みを克服するという視点が必要と考えている。

また、どのように持続性を発揮させていくかとなると、産業振興でいえば、いかに商売にするかということであり、そのために行政は、企業が自立するまでの支援が基本である。行政が過度に後押ししてしまうと、財源にも限界があり、企業が自分で稼ぐ力がつかないので、しっかりと立ち位置を見定めていく考えである。

人の流れをつくることについては、地域全体の魅力を発信することも大切だが、一企業が情報発信に取り組むことも大切と考えており、色々な場面でのPRに努める必要がある。

○他地域と比べたこの地域のアドバンテージは、やはり農業やその周辺の食産業であり、それらを基本に据えながら創業・起業の取り組みを進めていく必要がある。こうした取り組みによって人が集まりだすと、地域としての魅力が生まれ、関連産業が繁栄していく。

帯広市は道内の10万都市の中で最も住み良いとの調査も出ており、雇用が確保できれば一定の人の流れは構築できると考えている。

○農業が軸であるという意見をいただいたが、農業は国際化の流れや地球温暖化など、外的要因を受けやすいものであり、これをどのように成長産業化するか、常日頃から考えている。どこもやっていないことを全国に先駆けて進めることが、十勝・帯広の農業を強くしていくことにつながると考えている。先進的農業の導入に向けて、官民一体となって取り組んでまいりたい。

○育児休業に関して、実際に企業が制度を設けるのは大変な部分があると認識しているが、少なくとも、子育てをしている従業員が休みたいときに休める、育児休暇のような形から取り組んでいただければと思う。

○育児休業制度に関する意見をいただき、ワーク・ライフ・バランスの重要性については我々も同意することである。帯広市の事業所調査では、昨年度、育児休業制度を導入している企業が5割を超えたところである。

地域コミュニティについて、帯広市の町内会は30年～50年程度経つところが多く、高齢化が進んでいる。高齢者の活用だけではなく、移住者や企業の社会貢献活動などと掛け合うことで、新しい動きが出てくるものと考えている。

○帯広市のまちづくりの進め方について意見をいただいたが、第六期帯広市総合計画に基づき事業を進めている。フードバレーとかちの取り組みも、この中に包含されるものと考えている。

(その他、全体を通した意見等)

○産業振興のためには、一方で働く人が安心して入っていける地域にしなくてはならないが、町内会活動のほとんどは高齢者のために行われている。しかし、若者のための地域づくりをしていかないと、逆に高齢者が安心できる地域にならない。福祉センターの活用なども含め、取り組んでいければと思う

(2) その他

※事務局より、次回は10月23日(金)に開催予定との報告があった。

以上